

第1回 あびこeモニターアンケート

「発達に支援が必要な子の相談、発達支援体制について」集計結果

アンケート送信日	令和3年5月6日（木）
実施期間	令和3年5月6日（木）から令和3年5月20日（木）まで
登録者数	337名
回答者数	258名
回答率	76.56%

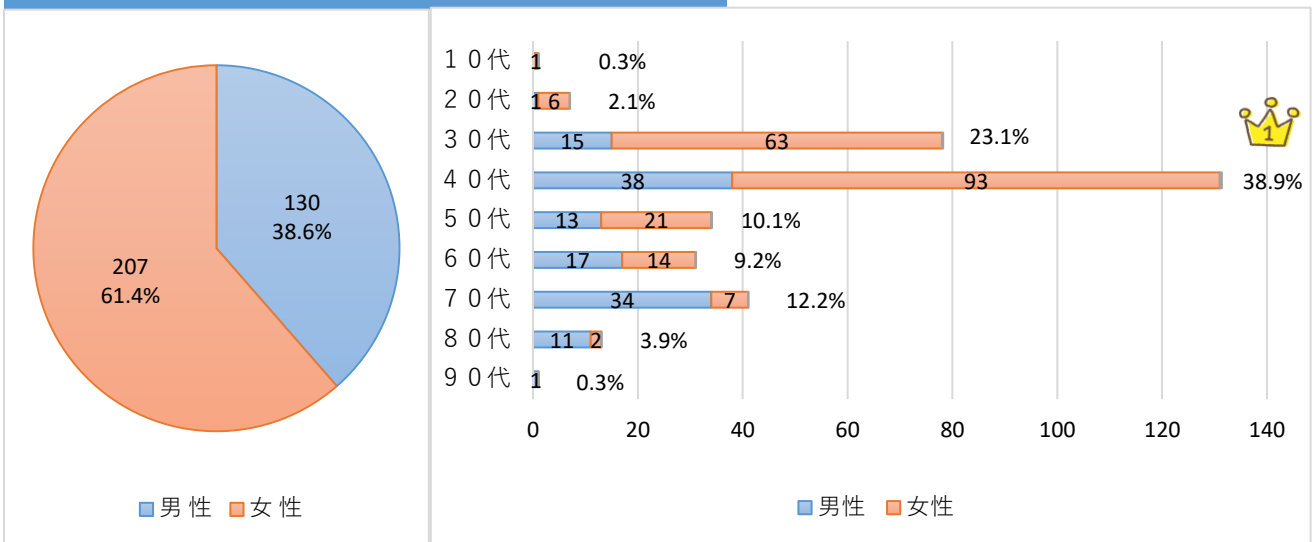
<担当課> 子ども相談課（こども発達センター）・教育研究所

<実施の目的>

我孫子市では、子どもが安心して健やかに成長するために、子育ての支援体制を構築しています。今回は、子ども自身に育てづらさを感じている保護者の支援体制について改めて考えていくためにアンケートを実施します。

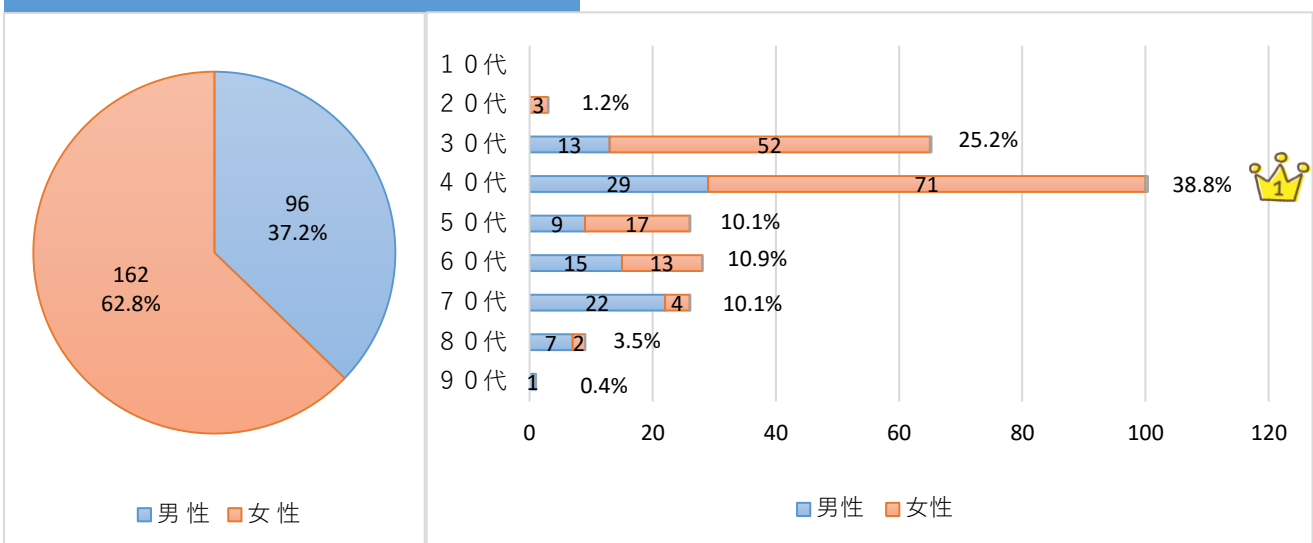
<あびこeモニターアンケート登録者の内訳>（人）

令和3年5月20日現在



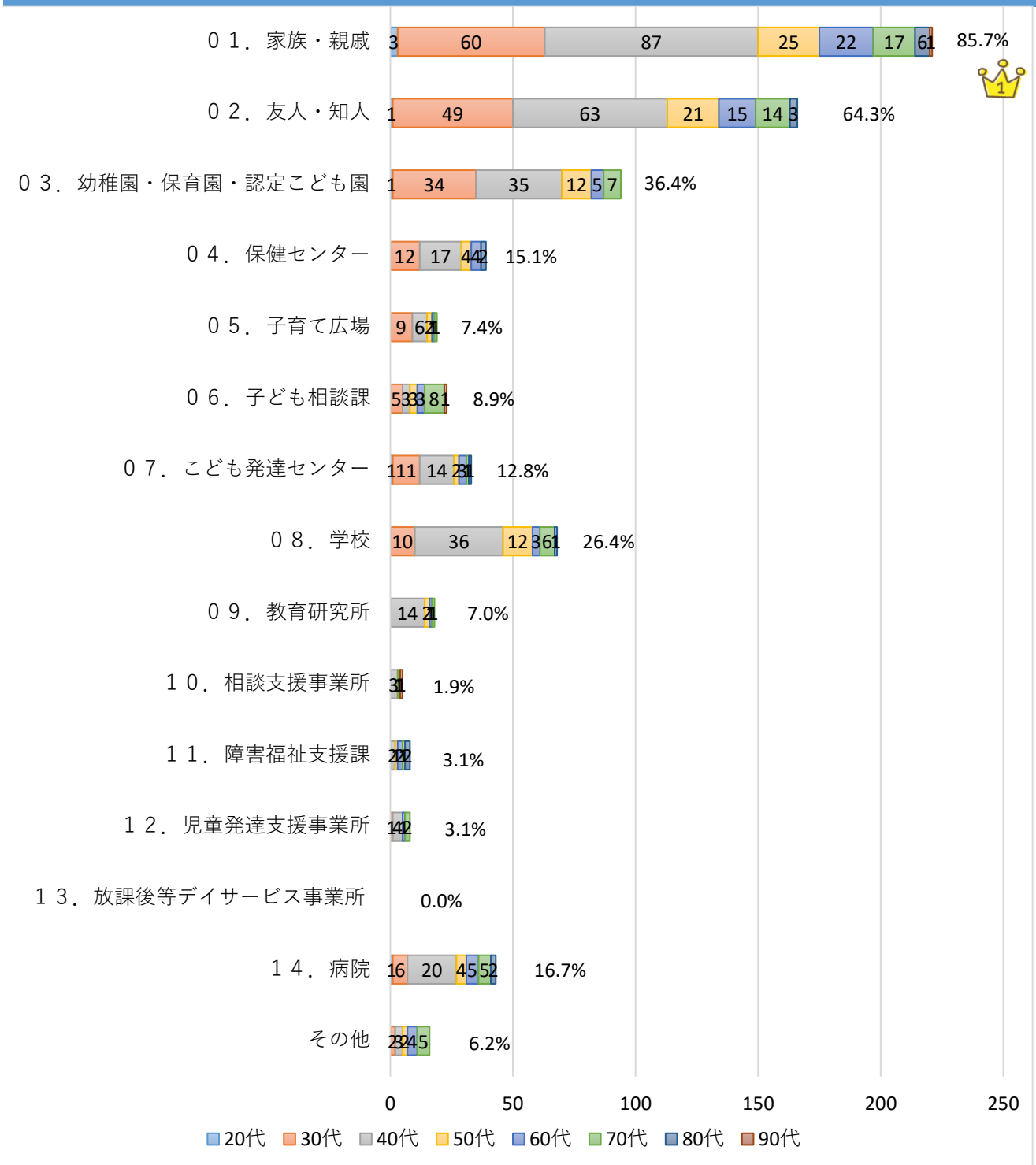
<アンケート回答者の内訳>（人）

令和3年5月20日現在



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

問1 子育てで困った時、どこに相談しますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



※複数選択のため、パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

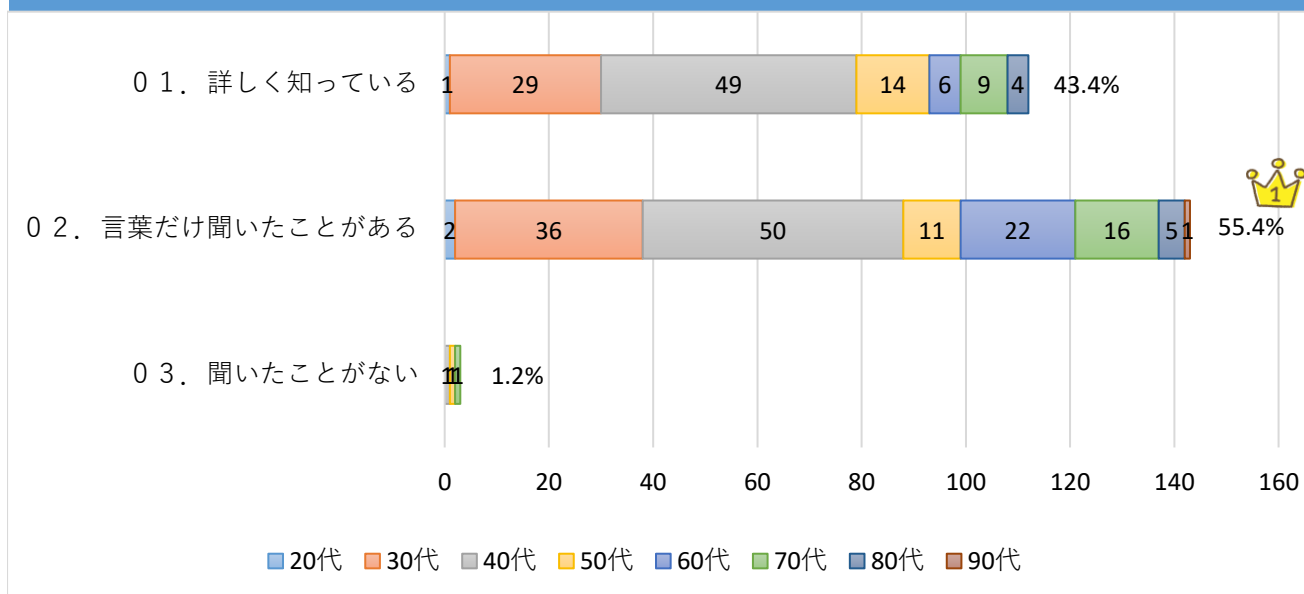
【その他回答】

- ・子供がいない、子育てが終わっている（同様の意見多数あり）
- ・民間の相談電話 ・インターネット ・コーチ ・カウンセラー ・市役所 ・自己解決 ・塾

<コメント>

身近な方に相談しても解決しなかった、もっと専門的な人に相談や話を聞いて欲しい時は、気軽にこども発達センターや教育研究所に連絡をください。こども発達センターや教育研究所で解決できないときは、関係機関を紹介させていただきます。

問2 発達障害について知っていますか。



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

<コメント>

発達特性＝発達障害ではありません。

発達特性は、発達期に発達の課題や問題（遅れ、歪み、偏り）が顕在化する状態をまとめたものです。

代表的な状態像は、

○同じ年齢のみんなが出来ることが出来ない。言葉や運動の遅れや学習の遅れなど成績の遅れで表れます。

○他の人には見られない独特なやり方や理解の仕方をする。はたから見て理解できない行動（融通が利かない、こだわりが強い、しつこいなど）として表れます。

○どの子にも年齢によって見られる行動（落ち着きがない、じっとしてられない、待てない、指示に従えない、集団行動が出来ないなど）の頻度と程度が通常を超えて表れます。

そして、これらの発達特性が日常生活、対人交流、学習、仕事の上で期待される程度や内容の事柄ができないという発達上の問題になり、本人自身の生活に困難が生じ、生きづらいつと感じる事になると障害となります。

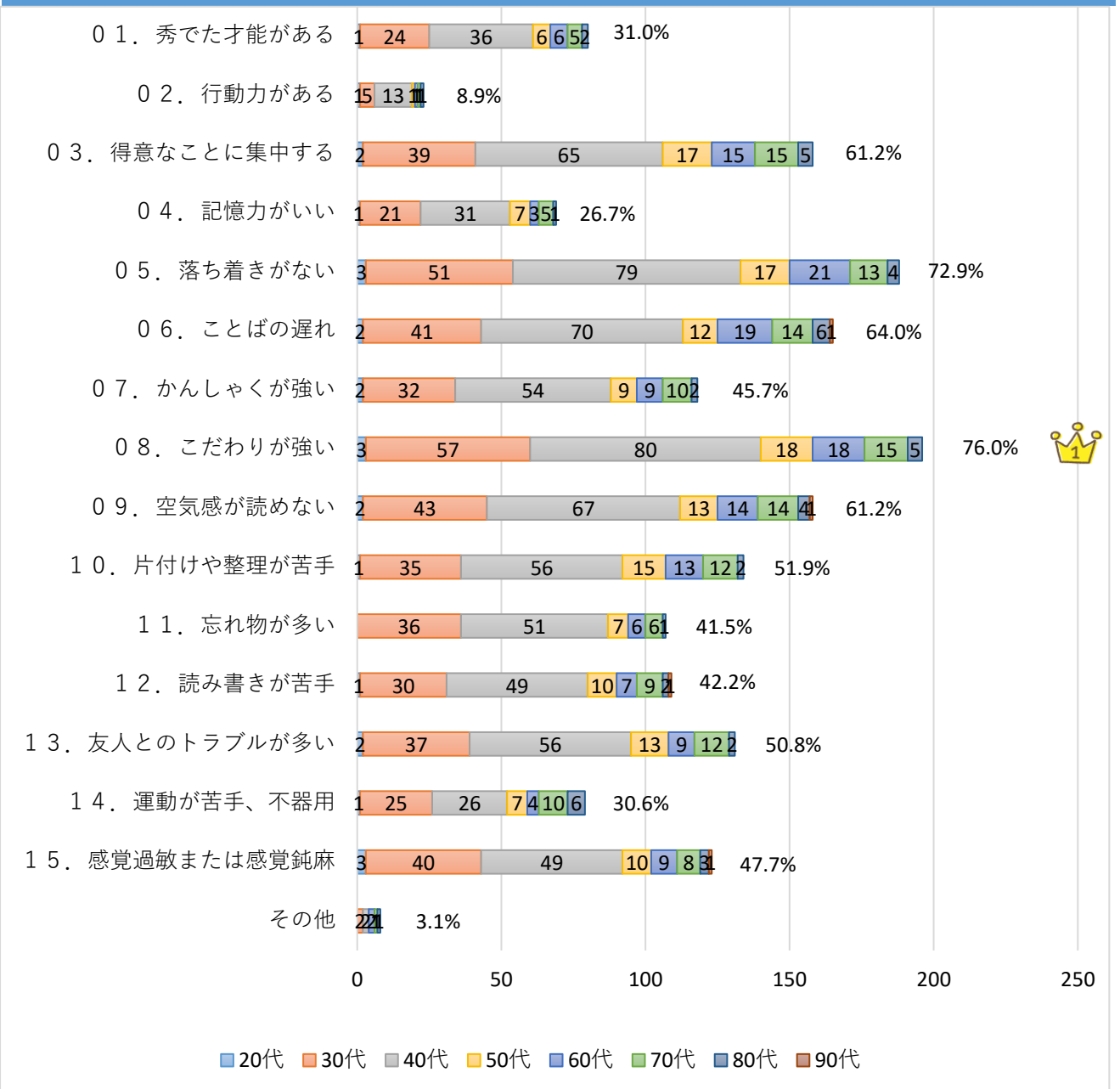
現在、発達障害は、神経発達障害と総称されるようになってきています。知的障害、コミュニケーション障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如／多動性障害、限局性学習症、発達性協調運動障害、常同運動障害、チック障害、トゥレット障害などが例として挙げられます。

保護者が思い込みで判断することのないように気をつけて下さい。その判断や見方が子どもの育ちを阻害することにもなります。気になる方は、発達に詳しい小児神経の医師やこども発達センター、教育研究所にご相談ください。

発達障害について知っていただくこと、理解していただくことは、発達障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考えております。

国立障害者リハビリテーションセンターに設置されている「発達障害情報・支援センター」のホームページ（<http://www.rehab.go.jp/ddis/understand/whatsdd/>）でわかりやすく解説されているのでぜひご覧ください。

問3 問2で01又は02と回答した方にお聞きします。発達障害とはどんなイメージをお持ちですか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



※複数選択のため、当該選択肢を選んだ方を問2で01又は02を選択した方で割った数値となっております。

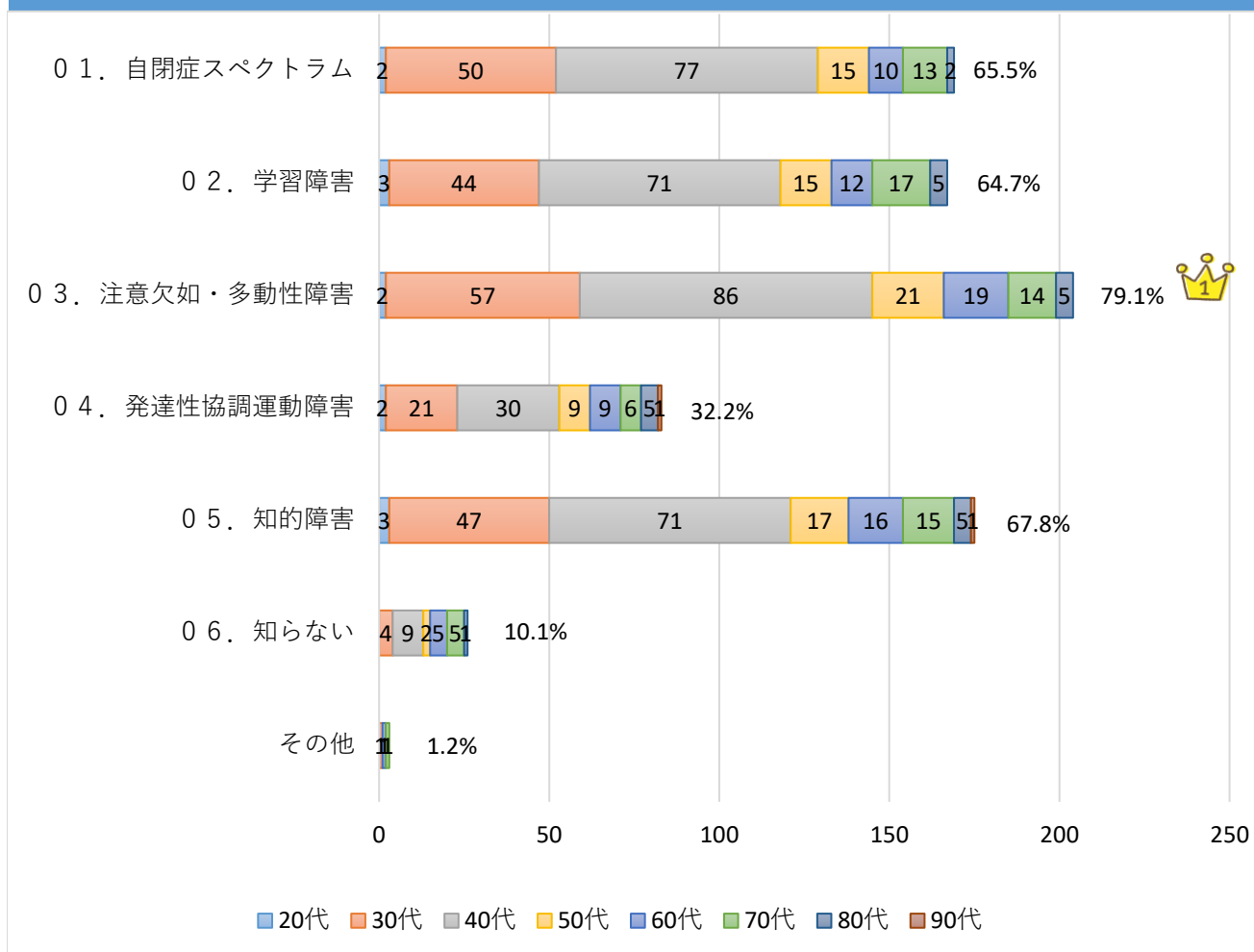
【その他回答】

- ・孫をイメージして ・個性が強い ・わからない ・それぞれ特性は異なる
- ・1から15までのいずれかの症状(?)がある人が発達障害とイメージしている。
- ・社会生活に適応しづらいかもしれない ・何かが他者と遅れてる
- ・障害の状態により症状は様々な形をとるのではないのでしょうか

<コメント>

発達障害とは、「生まれつき脳の機能が通常と違う」と考えられています。そのため、周りの人とは違う反応をしてしまうのです。親の育て方、愛情の注ぎ方などが原因ではありません。同じ障害名でも「特性」は、一人ひとり違い、いくつかの「特性」を併せ持つこともあります。また、特性の強さもそれぞれ違います。

問4 問2で01又は02と回答した方にお聞きします。発達障害の種類を知っていますか。(あてはまるものをすべてお選びください。)



※複数選択のため、当該選択肢を選んだ方を問2で01又は02を選択した方で割った数値となっております。

【その他回答】

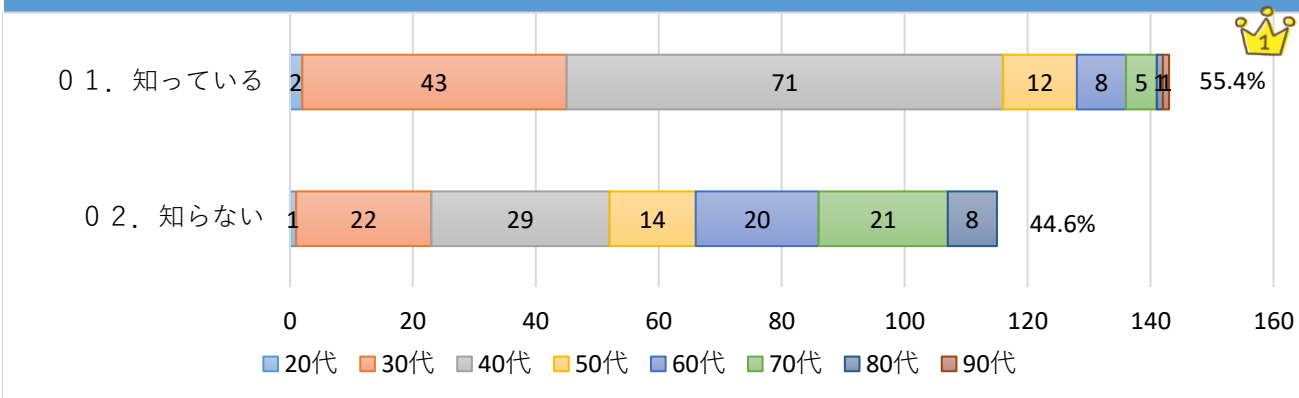
・発達障害、場面寡黙症、アスペ

<コメント>

発達障害には、自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠如・多動性障害(ADHD)、発達性協調運動障害、知的障害などが含まれます。

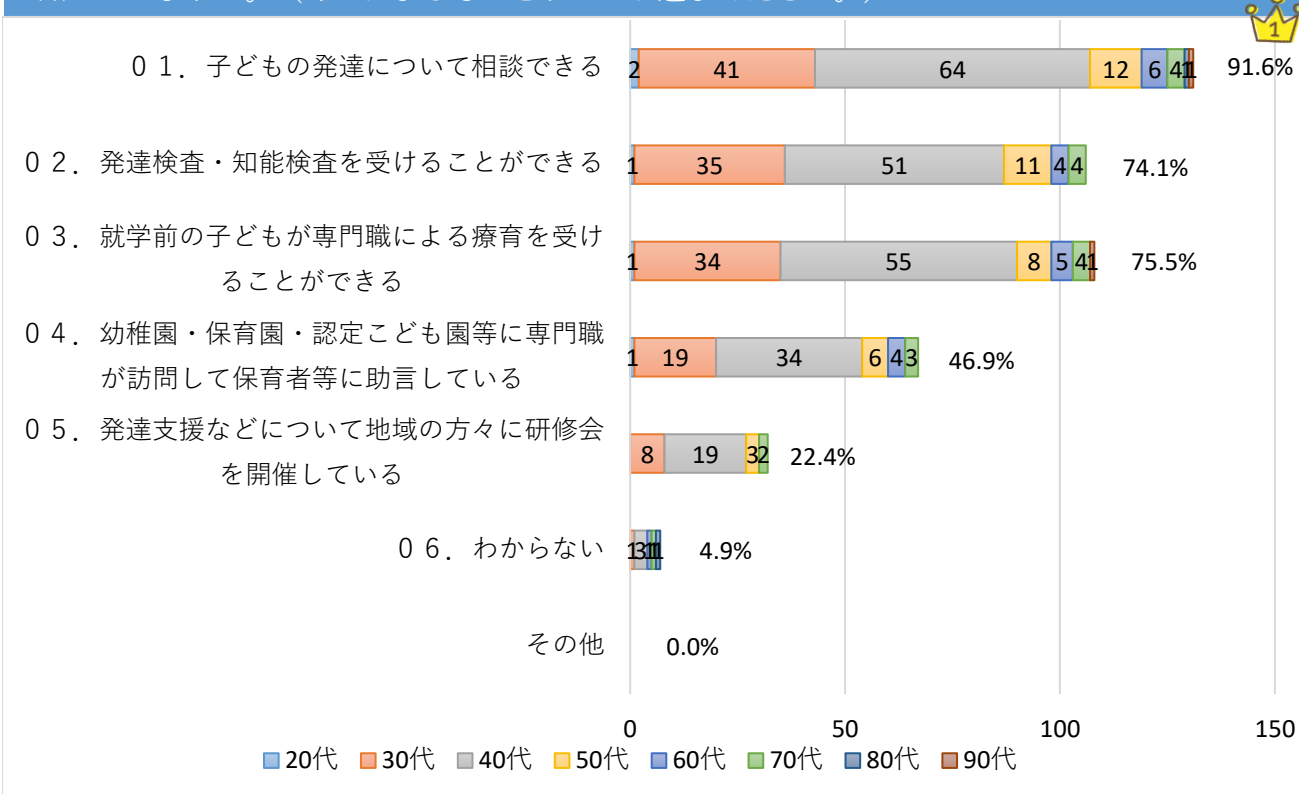
これらは、生まれつき脳の働き方に違いがあるという点が共通しています。同じ障害名でも特性の現れ方が違ったり、いくつかの発達障害を併せ持ったりすることもあります。

問5 こども発達センターを知っていますか。



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

問6 問5で01と回答した方にお聞きします。こども発達センターはどのようなことをしているか知っていますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



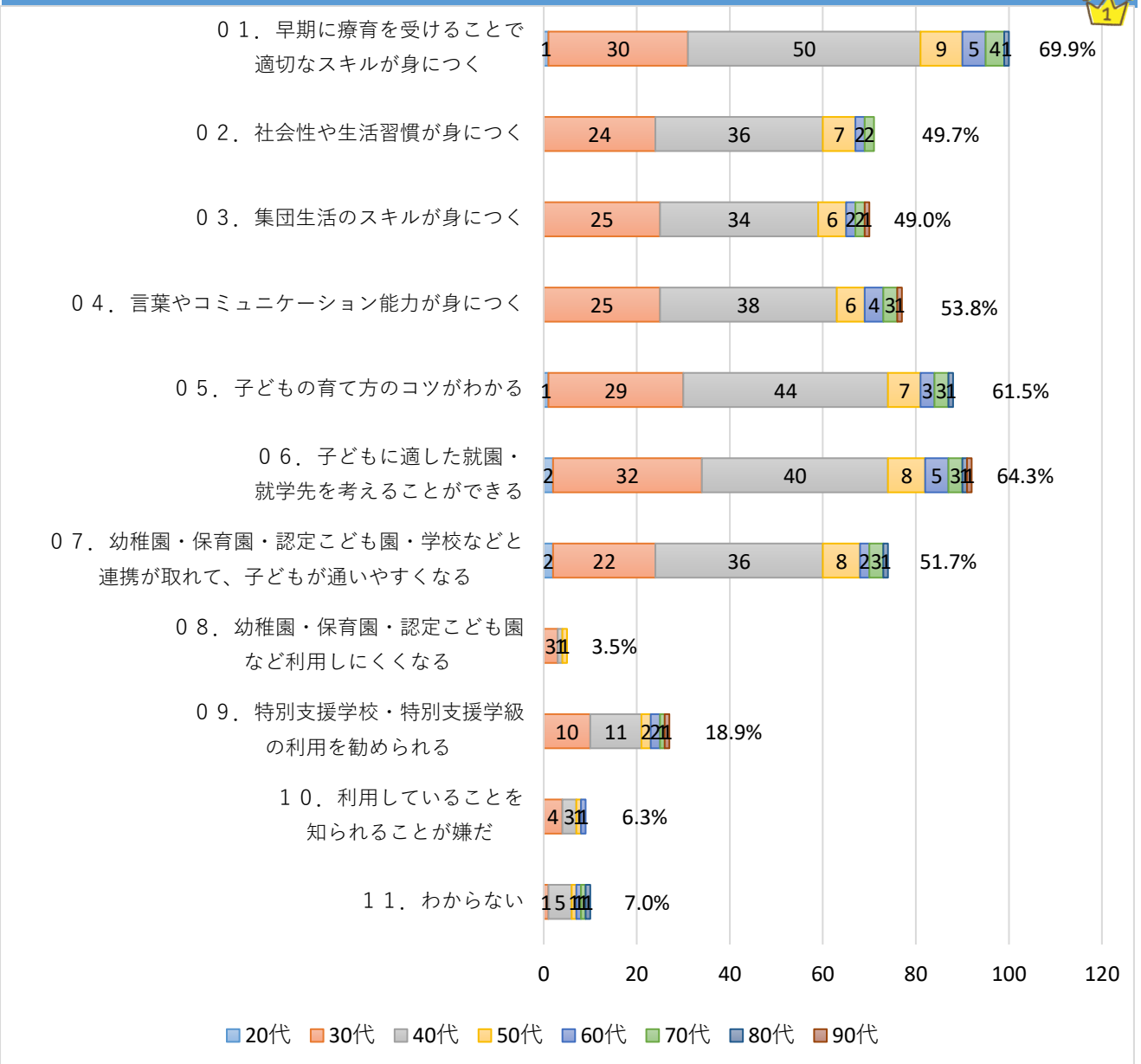
※複数選択のため、当該選択肢を選んだ方を問5で01を選択した方で割った数値となっております。

<問5・6のコメント>

我孫子市こども発達センターは、「子育て」を応援するところです。成長や発達に心配のある子、「ちょっと育てにくいな」と感じる子、どの子も家庭や地域で健やかに育つよう応援をします。お子さんの得意なところ、苦手なところに応じた相談や療育（個別・集団・児童発達支援事業所「ひまわり園」・保育所等訪問支援事業所「おひさま」）を行っています。また、幼稚園・保育園・認定こども園、学校等において、合理的配慮が提供されるよう、保育者や関係者に発達特性の理解を促し、関わり方や環境調整に関する助言等を行っています。

こども発達センターは、相談支援事業所「なの花」を併設し、児童通所支援サービスの利用に関わる相談を受けています。

問7 問5で01と回答した方にお聞きします。こども発達センターを利用するとどうなると思いますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）

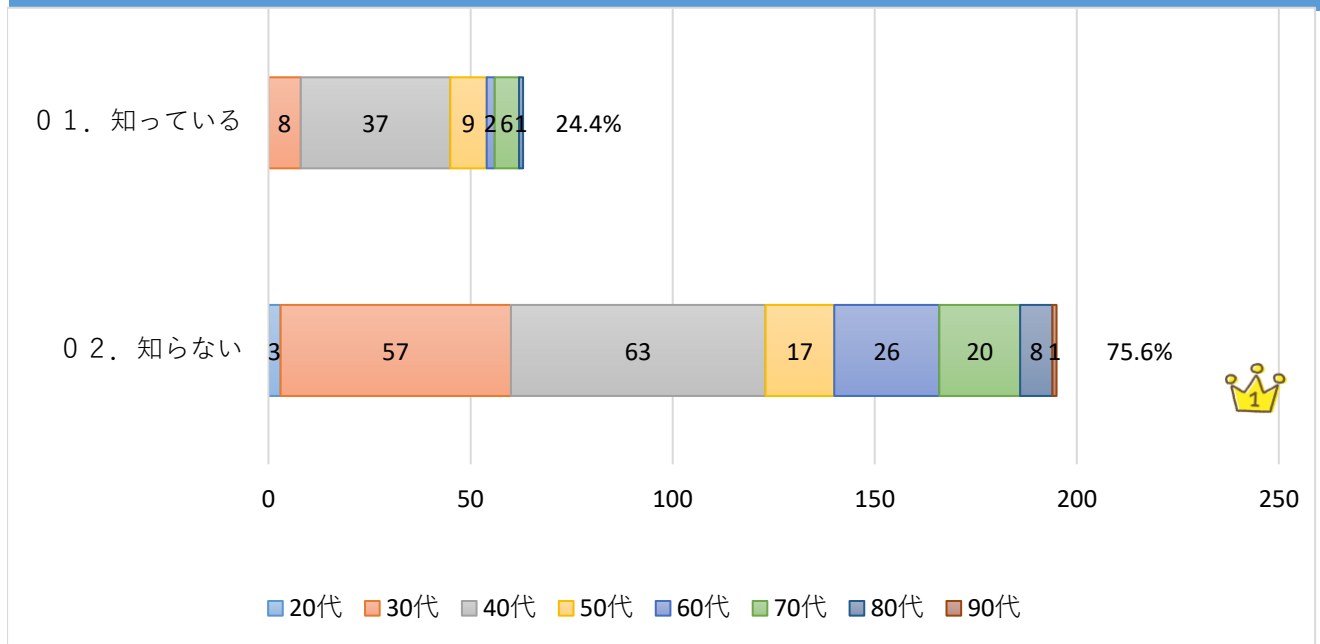


※複数選択のため、当該選択肢を選んだ方を問5で01を選択した方で割った数値となっております。

<コメント>

成長や発達に心配のある子、周りの子と比べてちょっと違うと感じる子は、さまざまな場面で「生きにくさ」を感じているかもしれません。その子どもの発達状況（発達特性）を早期に正しく理解して、早期に適切な支援を始めることで、子どもの「生きにくさ」を和らげて、成長を促すことができます。

問8 教育研究所を知っていますか。

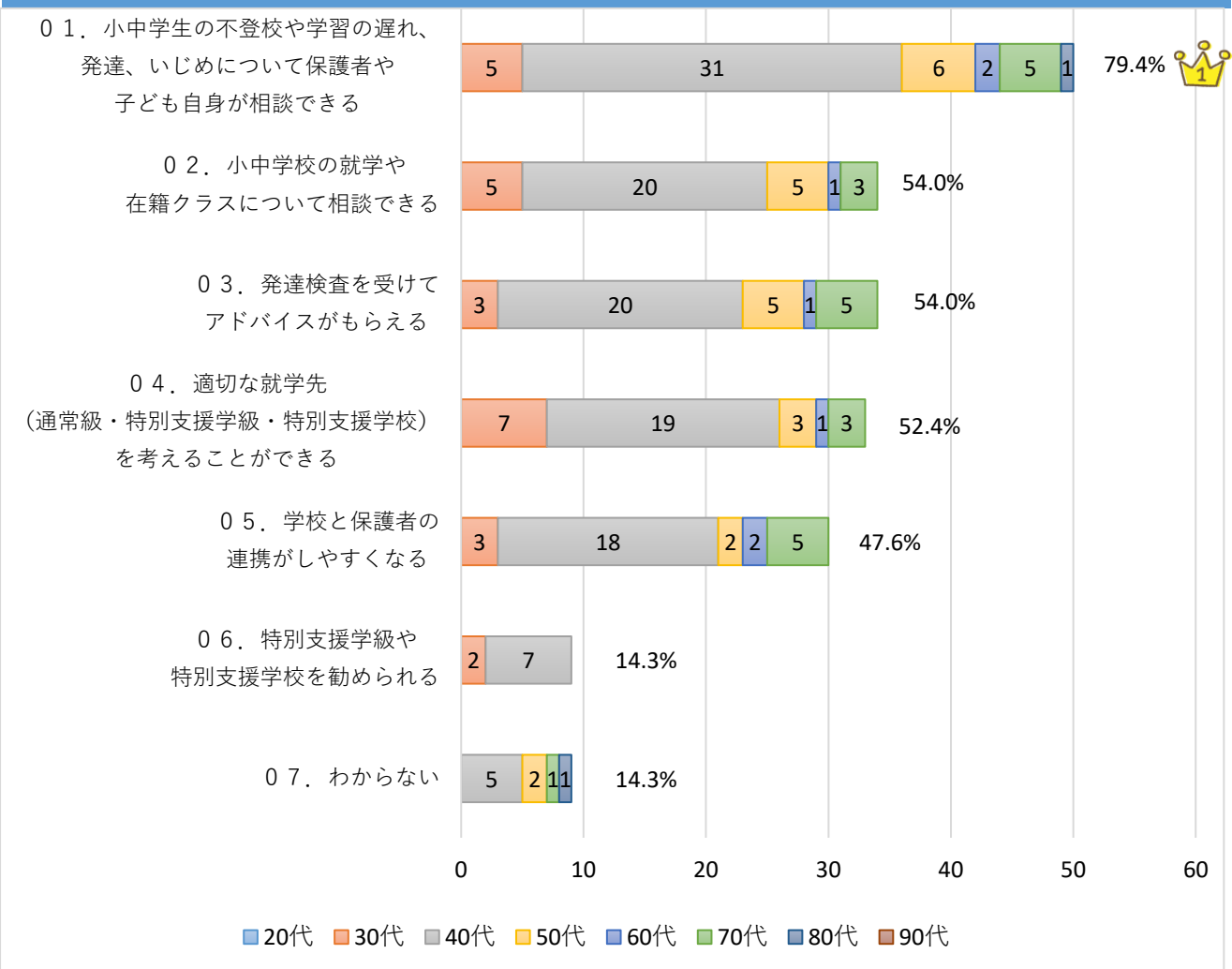


※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

<コメント>

教育研究所を知らないと答えた方は75.6%、知っていると答えた方は24.4%でした。学校や関係機関から紹介されることが多く、また困った時に初めてアクセスすることが多いため、知っている人が少ないと考えられます。教育研究所という名称のためアクセスしづらいことも考えられます。改善を検討しているところです。必要な時にすぐに繋がることのできるよう今後も連携していきます。

問9 問8で01と回答した方にお聞きします。教育研究所はどのようなことをしているか知っていますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



※複数選択のため、当該選択肢を選んだ方を問8で01を選択した方で割った数値となっております。

<コメント>

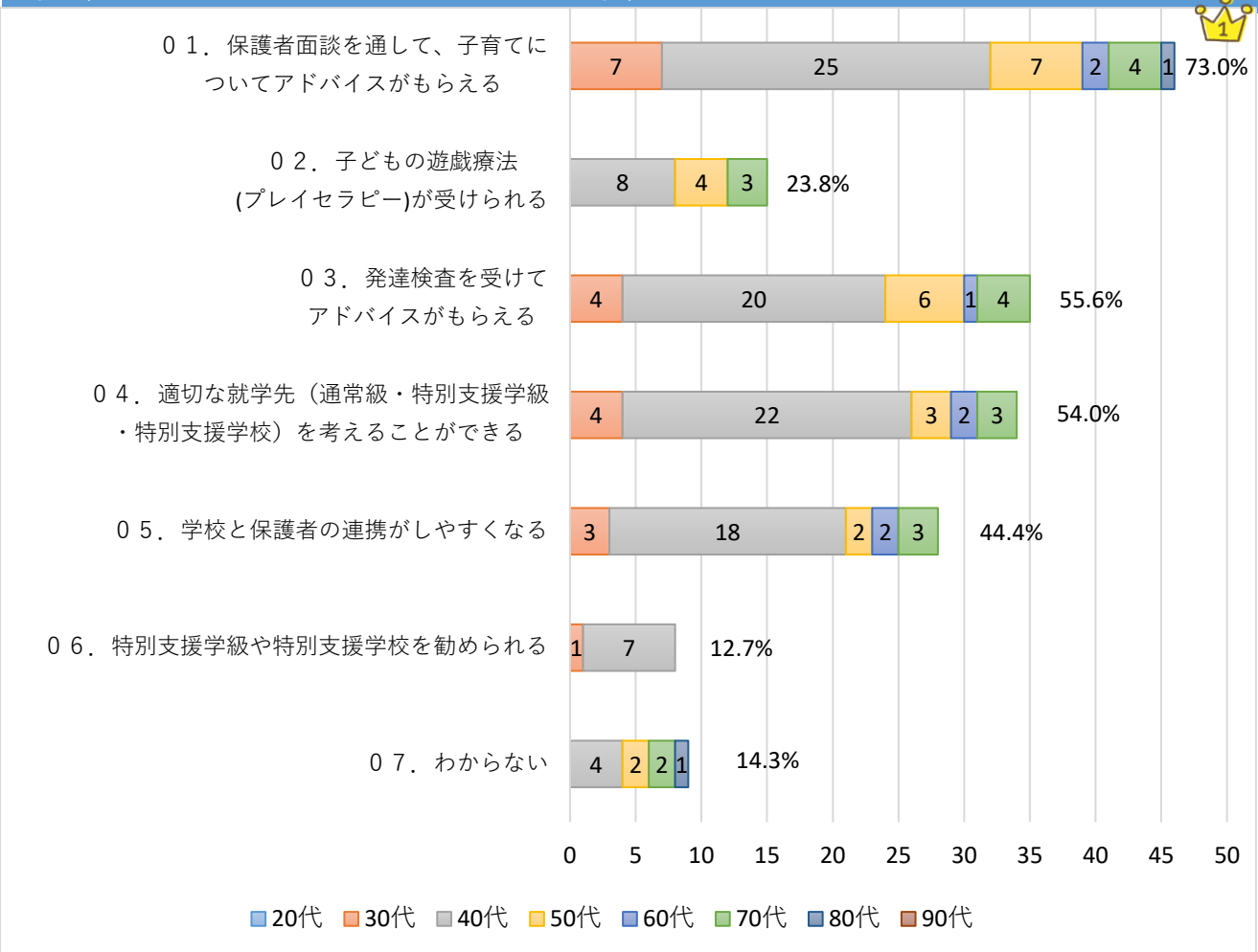
「不登校や学習の遅れ、発達、いじめについて相談できる」79.4%、「就学や在籍クラスについて相談できる」54.0%、「発達検査を受けてアドバイスがもらえる」54.0%、「適切な就学先を考慮することができる」52.4%、「学校と保護者の連携がしやすくなる」47.6%など、教育研究所を知っていると答えた方の半数は、教育研究所の内容をご存知でした。

教育研究所に相談すると「特別支援学級や特別支援学校を勧められる」と回答された方が14.3%いらっしゃいました。

特別支援教育の現状として、子どもの自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の整備と教員への指導を行っています。

特別支援学級では、通常学級の学習についていくことが難しかったり、大人数で一斉に学習に取り組む環境がづらいと感じる子どもを対象として、少人数の学級編成で支援をします。子どもの成長に伴い、通常学級の授業に参加する機会が増えたり、通常学級に移籍したりする場合があります。子どもの就学については保護者の意向を第一に進めてまいりますので、安心してご相談ください。

問10 問8で01と回答した方にお聞きします。教育研究所を利用するとどうなると思いますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

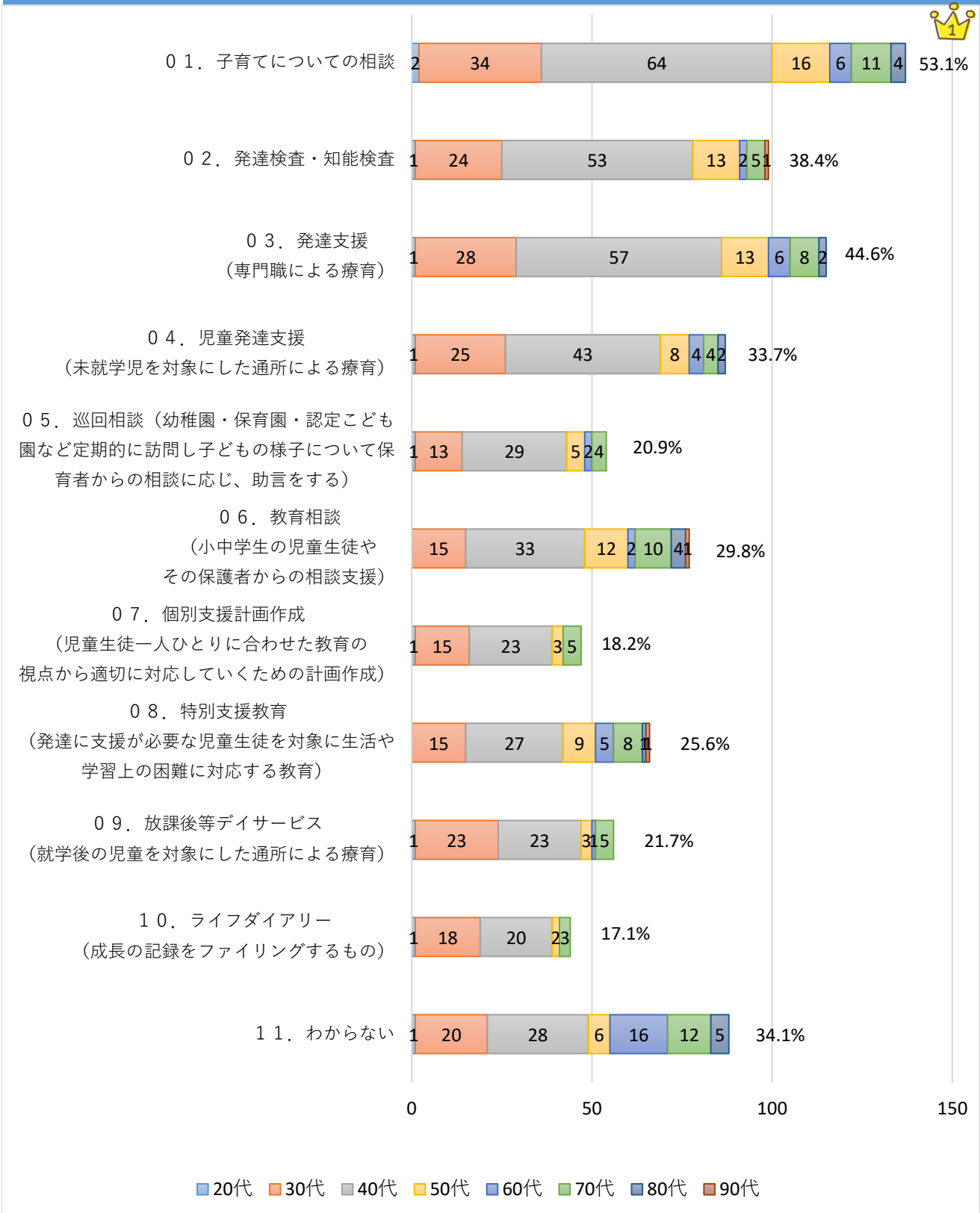
<コメント>

「保護者面談を通して、子育てについてアドバイスがもらえる」73.0%、「発達検査を受けてアドバイスがもらえる」55.6%、「適切な就学先を考慮することができる」54.0%と認知いただいている通り、教育研究所では、保護者からの子育てや就学について相談にのっています。また、子ども自身が相談したい場合も、遊びを通して相談にのります。必要に応じて学校とも連携します。身近に小中学生を子育て中の保護者でお悩みの方がいらっしゃいましたら、教育研究所への相談をご案内ください。

教育研究所の相談事業について（市ホームページ）

<http://www.city.abiko.chiba.jp/kosodate/kyoiku/kenkyujo/kyouikusoudan.html>

問 1 1 発達障害の子や「発達に支援が必要な子」が市でどのようなサービスを受けられるのか知っていますか。（あてはまるものをすべてお選びください。）



※複数選択のため、パーセントは当該選択肢を選んだ方を回答者の中で割った数値となっております。

<コメント>

発達特性のある子どもは早期に支援を開始することで基本的な生活能力の向上を図り自立を促進することができます。そのため、我孫子市では乳幼児期から早期発見に努め、民間のサービスも含め、年齢によって必要な支援に繋がられるよう様々なサービスを用意しています。

認知度18.2%の「個別支援計画」とは、個別の教育支援が必要と判断された子どもについて、一人ひとりのニーズを正確に把握し、特別支援教育の視点から適切に対応していくため保護者と学校と一緒に考えて作成するものです。

個別の教育支援計画について（文部科学省ホームページ）

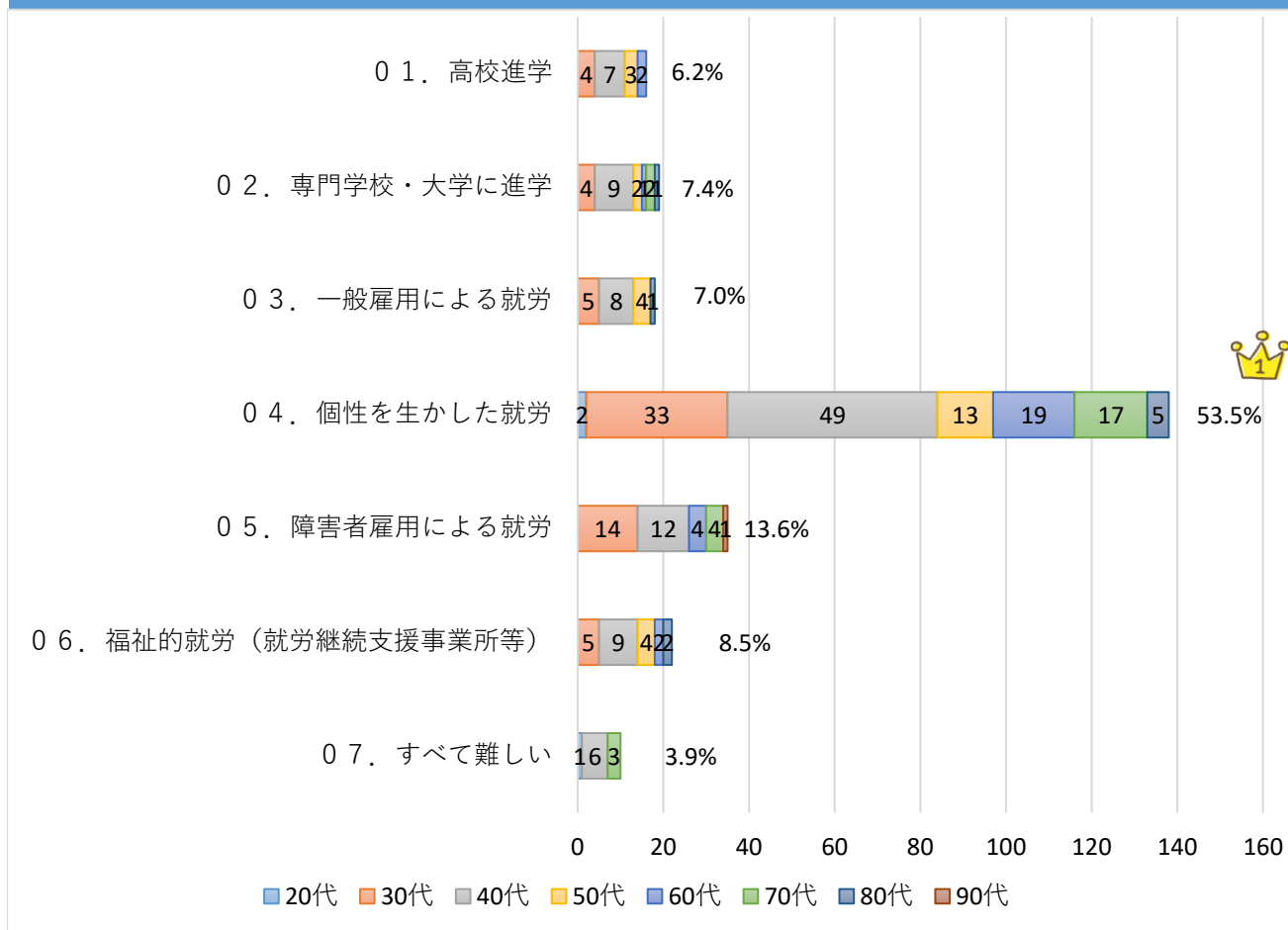
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm

認知度17.1%の「ライフダイアリー」とは、成長の記録とともに、大切な資料をまとめて納められるファイルで、我孫子市で生まれた赤ちゃん全員に配布しています。市役所や保健センターなどでも配布していますので、ご希望の方はお申し出ください。

ライフダイアリーについて（市ホームページ）

http://www.city.abiko.chiba.jp/kosodate/children/syussanshitara/medicalexam/life_diary.html

問 1 2 発達障害等、支援が必要な子どもの将来像についてどのように思いますか。



※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります。（次ページ以降も同じ。）

<コメント>

「個性を生かした就労」に53.5%の回答がありました。幼少期から早期支援を受け、基本的な生活能力の向上を図り自立を促進することができれば、将来について様々な選択肢があります。わが子の発達障害に直面することは、保護者にとって非常に辛いことですが、療育の先生が寄り添いサポートすることで、徐々にわが子を受け入れ、ともに成長することができます。そのためにも、早期発見・早期支援は重要です。子育てに困っている保護者が身近にいましたら、是非相談窓口をご案内ください。

市の相談窓口

こども発達センター（0歳～就学前）電話：04-7188-0472

教育研究所（義務教育年齢）電話：04-7187-4640 または 04-7187-4660